

2023年3月期 第2四半期 連結決算概要

キオクシアホールディングス株式会社

2022年11月11日

注意事項

2017年4月1日に株式会社東芝からメモリ事業を会社分割し（旧）東芝メモリ株式会社（以下「旧TMC」）が発足しました。2018年6月1日にBain Capitalを軸とする企業コンソーシアムにより組成される株式会社Pangea（以下「Pangea」または「新TMC」）が旧TMCを買収したのち、2018年8月1日に新TMCが旧TMCを吸収合併し、社名は東芝メモリ株式会社となりました。また、2019年3月1日に単独株式移転により東芝メモリ株式会社を完全子会社とする東芝メモリホールディングス株式会社（以下、「TMCHD」）を設立しました。2019年10月1日に当社はキオクシアホールディングス株式会社に社名変更しました。

将来に関する記述は、当社が現時点で把握可能な情報から判断した想定および所信に基づくものであり、多様なリスクや不確実性（経済動向、市場需要、半導体業界における激しい競争等がありますが、これらに限られません。）により、実際の結果とは異なる可能性があるのでご承知おきください。また、当社は本資料上の将来予想に関する記述について更新する義務を負うものではありません。

本資料に記載されるメモリ市場の見通し等に関する情報は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成しているものであり、当社がその真実性、正確性、合理性及び網羅性について保証するものではありません。

なお、本資料は、当社の2023年3月期第2四半期連結決算概要の提供のために作成されたものであり、国内外を問わず、当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

本文に掲載の製品名やサービス名は、それぞれ各社が登録商標または商標として使用している場合があります。

業績概要¹

[億円]	23年3月期 1Q	23年3月期 2Q	対前四半期
	売上収益 ²	3,673	3,914
営業利益	851	806	▲45
マージン	23%	21%	▲3pt
当期純利益 ²	426	348	▲78
マージン	12%	9%	▲3pt

補足情報

減価償却費及び償却費 ^{2, 3}	1,037	1,013	▲24
不純物を含む部材を起因とする操業影響額 ^{4, 6}	-	-	-
PPA影響額等 ^{5, 6}	▲148	▲55	+93
法人所得税費用 ²	156	131	▲25

1. 連結・IFRSベース
2. 今四半期より売上高、減価償却費、法人税等費用の項目名を、それぞれ売上収益、減価償却費及び償却費、法人所得税費用に変更しておりますが、実質的な意味に変更はありません。また、当期純利益とは、IFRSにおける親会社の所有者に帰属する四半期利益を指しております。
3. 営業利益に減価償却費及び償却費を加算したものが、当社グループのキャッシュベースの収益性を示す指標であるEBITDAとなります。当第2四半期におけるEBITDAは、営業利益806億円に減価償却費及び償却費1,013億円を加算した1,819億円となりました。
4. 2022年1月下旬に発生した3次元フラッシュメモリ「BiCS FLASH™」の特定の生産工程における不純物を含む部材を起因とする四日市工場と北上工場での操業影響による仕損品に関わるコスト、未稼働

- 期間の製造固定費を含む営業利益への影響額です。
5. 過去の企業結合に伴い発生したPPAによる営業利益への影響額及び2019年6月に四日市工場で発生した停電影響額です。
6. 営業利益から不純物を含む部材を起因とする操業影響額及びPPA影響額等（以下「Non-GAAP調整額」）を除外したものが、当社グループの恒常的な経営成績を示すNon-GAAP営業利益となります。当第2四半期におけるNon-GAAP営業利益は、営業利益806億円からNon-GAAP調整額▲55億円を除外した861億円となりました。同様に、Non-GAAP当期純利益は、当期純利益348億円からNon-GAAP調整額▲55億円を除外した金額から税金調整額を差し引いて386億円となりました。

ハイライト (1/3)

足元の実績及び動向

	23年3月期 1Q	23年3月期 2Q
出荷量 ¹ (QoQ)	20%台前半の 減少	20%台半ばの 増加
販売単価 ¹ (¥, QoQ)	10%台前半の 上昇	10%台半ばの 下落

1. 記憶容量ベース

- 第2四半期連結会計期間は、不純物を含む部材を起因とする操業影響からの回復に加え、スマートフォン向け出荷が季節性要因で増加したことにより、総出荷量は増加。一方で、需給バランスと製品ミックスの影響によって販売単価が下落した結果、前四半期比で増収減益となった
- 円安の進行により、ドルベースの販売単価は円ベースの販売単価よりも大きく下落し、20%台前半の下落となった

ハイライト (2/3)

製品開発・技術開発

- 業界初¹の2TBのmicroSDメモ리카ードの試作
- ハイパースケールデータセンター向けSSD「XD7Pシリーズ」の評価用サンプル出荷

1. 2022年9月28日時点。キオクシア株式会社調べ

フラッシュメモリの生産調整について

- キオクシア株式会社は、四日市工場（三重県四日市市）と北上工場（岩手県北上市）において、10月から当面、同社分のウエハー投入量の約3割を削減する生産調整を実施。需要動向に沿った生産調整を実施するとともに、市況動向を見ながら、随時、稼働状況を見直していく

市場動向及び見通し

- 世界的なインフレ進行と金利上昇、景気後退懸念及び新型コロナウイルスの感染再拡大に伴うサプライチェーンの混乱により先行き不透明感が強まっており、フラッシュメモリ需要が全般的に弱含んでいる
- PCとスマートフォンの出荷台数は前年比で減少見込みであり、1台当たりのフラッシュメモリ搭載容量は穏やかに増加継続しているものの、需要の強さに欠ける
- クラウドサービスのエンドユーザー需要は、デジタル化の進展に伴って堅調であるが、先行きに不透明感が見られている。データセンター・エンタープライズSSDの需要は、景気後退懸念から客先が在庫調整に動いており、足元で軟化している
- 当面はマクロ経済の不確実性が高い状況が続くと見込まれるが、フラッシュメモリ市場の中長期的な成長トレンドについての市場の見方に大きな変化はみられていない
- 市況悪化局面への当面の対応として需要動向に合わせた生産調整を実施しつつ、継続的に製造コストの低減と販管費のコントロールに取り組むことで収益性の改善に努める

KIOXIA